

平成31年度 つくば秀英高等学校 経営計画表

1. 学校の現況

学校名	つくば秀英高等学校			課 程	全日制			学校長名	石川 英昭	
教頭名	石塚 安喜子			副教頭名	沢辺 卓己			事務長名	坂本 光久	
教職員数	教諭 36	養護教諭 1	養護助教諭 1	常勤講師 10	実習助手 1	非常勤講師 19	事務職員 12	技術員 1	合 計	81
生徒数	(学科)	1 年		2 年		3 年		合 計		クラ ス数 合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科	178	106	146	123	149	107	473	336	24

2. 目指す学校像

建学の精神（自主・博愛・創造）を高らかに掲げて、国際的研究学園都市つくばにふさわしい、21世紀社会の課題と未来を先導する知恵と進取の気風あふれる学校づくりをすすめる。

3. 教育方針

- 1) 生徒の自主性を生かし、知性・礼儀・健康を育む教育の実践
- 2) 生徒個々の適性と能力に応じた、きめ細かい指導
- 3) 新時代に対応できる、幅広く国際的な教育と感覚とを身につけた生徒の育成
- 4) 多角的な可能性を発掘し、自己表現のできる生徒の育成
- 5) 自然を愛し、先達を敬い、規律を守る、倫理観のある生徒の育成

4. 教育目標

- 1) 生徒一人ひとりの進路実現
- 2) 基本的生活習慣の確立

5. 中期的目標

創立25周年を迎えるにあたり、本校を取り巻く社会環境、高校教育環境の変化を踏まえ、克服すべき課題に取り組み、未来志向の本格的な存在感のある進学校をめざす。

6. 今年度の重点目標

- 1) 基礎的・基本的な学力を身に付けるとともに、思考力・判断力・表現力及び学習意欲とチャレンジ精神を持った生徒の育成
- 2) キャリア教育の確立と充実
- 3) 礼儀正しく、豊かな心と社会性を身に付けた生徒育成
- 4) 文武両道の精神の下、健康でたくましい生徒の育成

平成31（令和元）年度 つくば秀英高等学校 評価結果表

1.本年度の学校目標

- 1) 生徒の自主性を生かし、知性・礼儀・健康を育む教育の実践
- 2) 生徒個々の適性と能力に応じた、きめ細かい指導
- 3) 新時代に対応できる、幅広く国際的な教育と感覚とを身につけた生徒の育成
- 4) 多角的な可能性を発掘し、自己表現のできる生徒の育成
- 5) 自然を愛し、先達を敬い、規律を守る、倫理観のある生徒の育成

評価区分	重点目標（または具体策）	自己評価	学校関係者評価※	
校務分掌	教務部	25周年改革の適切な運営	5	4
		新学習指導要領への対応	4	
		主体的な学びを伸ばすための授業力向上	4	
		生徒・保護者アンケートの再検討	5	
	生徒指導部	初動対応と組織的対応の徹底	4	
		校舎内外の環境整備の徹底	4	
		制服着こなし指導の徹底	4	
		行事の精選と活性化	4	
		いじめ問題への迅速な対応	5	
		声を上げられない生徒へのフォロー	5	
		いじめに対策における教員の資質向上	5	
		P T A各組織の円滑な運営と活性化	4	
	進路指導部	生徒の進路意識の向上	3	
		進路指導（大学入試・専門学校・就職）への支援	3	
		生徒の基礎学力向上に向けた活動への支援	3	
		ポートフォリオ活用の充実	3	
		学習活動の支援	3	
	入試広報部	志願者数・入学者数の増加を図る	4	
より多くの成績上位者の獲得を目指す		4		
各種説明会の充実を図る		5		
学年	第1学年	Sコース、Tコース主任と教科担当と具体策を常時確認し、密に連携する。Tコースの温習教育の把握に努め結果に繋げる。学年生活指導との連携をとり基本的な生活習慣を確立させる。各クラスの3者面談の充実により生徒1人ひとりの家庭環境の理解に努め、学習・生活の向上に繋げる。キャリア教育を充実させ、ミスマッチの無い文理選択、オープンキャンパスへの参加を促し、ポートフォリオを蓄積させ大学入試改革に備える。	4	4
	第2学年	新しい学習教材と各試験を連動させ、弱点補強と希望する科目の学力向上を図る。年間で5回の面談を実施し、日々の生活指導の充実により生徒の心のケアも図る。	3~4	
	第3学年	学年が一体となって、生徒1人ひとりの進路指導にあたり、ワンランク上の志望校を目指していく。「数値」にこだわった、学力アップを試みる。社会に通用する生活態度や身なりの指導を図る。	3~5	

評価区分		重点目標	自己評価	学校関係者評価※
コース	Sコース	国公立の合格者増、MARCH以上の私立大学の合格者増を目指すべく特設授業、自学タイムの実施、土曜補講の実施、高塾連携事業、探研プログラム、高大連携模擬授業を実施する。	4~5	4
	T・AB 選抜コース	国公立大学、日東駒専への合格を目指すため、家庭学習習慣の確立、キャリア探究講座の充実より発展的な学習の充実、ゼミや対策講座への積極的参加を促す。学年と連携をとりながら、生徒の選出選抜クラスの運用について統一させる。	4~5	4
	T・AB コース	学力の定着と進路実現を目指したキャリア教育の充実	4~5	4
	スポーツコース	「プレイヤーズファースト」の精神を基盤とした合理的・科学的な練習を計画的に実施するとともに、全国レベルの競技力を身につけさせる。知育・徳育・体育の調和のとれた人間性地域社会を理解し、貢献できる生徒を育成する。	4~5	4
教科	国語	弱点分野を明確にし、授業の改善を図る。アクティブラーニングの導入、小論文指導、漢字検定合格率の向上させる。	4~5	4
	地理歴史・ 公民	クラスの実情に合わせてながら、入試問題の研究を進める。新テストの情報を共有化する教科の特性を生かしながら、生徒たちが社会から求められる力を育む。教員研修の充実を図る。	4	
	数学	新テストの情報を数学科で共有した上で、他教科と協同し、単なる計算力ではなく、読解力・応用力の向上を図る。「eトレ」などを用いて個々に合わせた学習を実施、課題解決能力を育成する。	4~5	
	理科	コース・クラスの実情に合わせてながら、大学入試に対応できる学力を身につけさせる。調査探究能力の開発、プレゼンテーション能力の向上を図る。	4~5	
	英語	オリジナルテキストを用い、生徒の英語力に応じた丁寧な指導を行う。ICA（国際コミュニケーション活動）を通じて、英語学習へのモチベーションを高めるとともに、実用的な英語学習の機会を増やしていく。	3~5	
	保健体育	各種目、競技の特性を生かし、体力の向上、健康の増進を図る。	4	
	芸術	感性を働かせ、他者と協働しながら表現を生み出したり、思考力・判断力・表現力などの基礎的な能力を育てる。芸術に触れながら、日本の伝統や文化を踏まえ、健全な愛国心を育む。	4	
	情報	高大接続改革の1つであるポートフォリオを生徒に作成させ、その充実を図る。将来に役立つ知識・技能を身につけさせる。	4	

※本校の教育活動に関する意見交換により得られた自己評価の結果についての評価である。

評価基準

5：十分適正である 4：適正である 3：概ね適正である 2：やや適正に欠ける 1：適正でない

平成31(令和元)年度 つくば秀英高等学校 第三者評価結果表

	評価事項		評価
1	本校の教育理念の実践について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
2	当年度の教育目標に対する取組とその成果について (主に授業、生徒指導、進路指導、部活動等の状況を中心に)	校務分掌	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		学年	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		コース	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		教科	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
3	当年度の課題と今後の方策について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
4	本校の組織運営について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない

(評価者の意見等)

難関大学への合格者が倍増したほか、部活動においては関東大会のみならず全国大会レベルの活躍もみられた。

課題に対する継続的な取り組みと、30周年に向けた更なるステップアップを望みます。

つくば市農業委員会

会長 高谷 榮司



※上記は自己評価結果や学校関係者評価の実施状況を踏まえて、本校の学校運営の状況について評価したものである。